

刊 行 に あ た っ て



太平洋を望む苫小牧市は、16万8千人が暮らす、北海道で4番目に人口が多い都市です。国際拠点港湾である「苫小牧港」と北海道の空の玄関口「新千歳空港」のダブルポートを擁する交通の要衝として、また、製紙業を始めとする工業都市、或いは自動車関連など多様な産業が集積する産業拠点として発展してきました。

一方、世界的に珍しい溶岩円頂丘をもつ樽前山とその山麓に広がる豊かな森林、東部の勇払原野、さらにはラムサール条約登録湿地であるウトナイ湖を有するなど、自然環境に恵まれたまちでもあります。

本市は、公害のない健康で安全な都市環境の創造を目指し、昭和48（1973）年には「人間環境都市」を宣言し、当時国内で問題となっていた大気汚染や水質汚濁などの公害の監視・指導に努めてきました。

本市では、平成11（1999）年に「苫小牧市環境基本条例」を制定、平成15（2003）年には「苫小牧市環境基本計画」を策定し、快適な環境の保全及び創造を目指して、市民、事業者、市の協働により事業を推進してきました。

近年、地球温暖化に起因する気候変動は、世界中の人々や生態系に影響を与える深刻な問題となっています。本市では平成22（2010）年から日本初のCCS大規模実証実験に取り組み、現在はCCUSの検討へと移行していますが、昨今の脱炭素社会に向けた動きがますます活発化する中、令和3（2021）年8月に二酸化炭素の実質排出量ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を宣言したところです。今後、世界共通の喫緊の課題である地球温暖化問題に、全市を挙げて取り組んで行く決意です。

本書は、令和3（2021）年度に実施した本市の環境保全及び創造に関する施策等をまとめたものです。本書をご覧になった皆さんが環境問題への理解をさらに深め、自らが行動するきっかけになれば幸いです。

令和5（2023）年2月

苫小牧市長 岩倉博文

人間環境都市宣言

苫小牧市は、開基百年にあたり、緑と太陽の大自然を
擁するかけがえのない郷土を守り、人間を主体とした、
公害のない、健康で安全な都市環境の創造と決意し、こ
こに、「人間環境都市」を宣言する。

〔昭和 48 年 11 月 17 日議決〕